

No.		2017-12		労働災害状況調査表					
発生会社 事業所									
災害発生日時		H28年 9月 26日(月)		10時 00分		天気 (晴れ)			
災害区分		不休災害		休業災害(休業見込み日数: 日)					
被災者	部門	生産・技術・営業・管理(事務)		雇用形態	正社員・派遣・請負・その他( )				
	年齢	37歳	性別	男	女	勤続年数	10	経験年数	7
	傷病名	病名(火傷)		部位(右手 人差し指/中指)					
	傷病部位								
災害発生状況	2工場のボイラーがトラブルで停止したため、業者からの電話による遠隔操作で対処していた。			状況概略(写真orイラスト)					
	故障原因:エコマイザー内部で給水ライン配管に破損(亀裂)が生じ缶水が漏れていた			四角い装置が、エコマイザーで奥がボイラー本体					
	復旧後、通水確認のため配管を触ってしまい、右手の人差し指と中指に火傷を負った。								
	その後、指の痛みがひどくなり、また腫れてきたため、病院を受診し、処置を受けた。			 <p>上部バルブを開けた後に横の配管に右手が触れてしまった。</p>					
災害の型※1)	8.高温物との接触(やけど、熱中症)			作業の形態:定常、非定常、その他( )					
起因物:	高温配管			特記事項:					
原因	1.人的要因(man):								
	ボイラー(高温体)に対する危険性の知識が低かった。								
	2.物に関する要因(machine):								
	工場ライン配管は断熱被服されているが、ボイラー関係の配管は被服されていなかった。								
3.環境要因(media):									
反応装置(50Lタンク)がすでに稼働状態でボイラー復旧が急務であった。									
4.管理的要因(management):									
工場内に現在2基のボイラーが有るが4工場の1基は生産量に応じて省エネのため、停止している。									
対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・注意喚起を行う為、蒸気配管付近に高温注意の看板を設置する。</li> <li>・ボイラー室扉に手袋を設置しボイラー室内での作業は耐熱手袋を装着して行う(仮に触れても火傷を負わない状況にする)。</li> <li>・ボイラー使用時の注意と対策を工場作業者に教育訓練を実施し、周知徹底する。</li> <li>・4工場ボイラーも稼働できる状態にして、どちらかトラブルが起きても、もう一つのボイラーを動かし常時蒸気が供給できる状態にする。(トラブルを起こしたボイラーは、停止して業者対応を依頼する。)</li> </ul>								
	今後、2工場ボイラーと4工場ボイラーを交互に動かしてどちらのボイラー状態も把握できるようにする。								
	ボイラー制御盤にエラーコード一覧と対応内容の書式を貼付し対応を迅速に行えるようにする。								
	エラーコードの表示と対応内容で対応内容が明確になり業者連絡するタイミングも速くなり対応しやすくなる。(今回のエコマイザーでのトラブルは対応内容の記載が無かった。缶水異常の処置確認記載なし)								
対策分類※2):									
備考	類似箇所の抽出:								